

日本社会薬学会 第30年会特別企画

「われわれはどこから来たのか」

2011年9月3日 東京大学・安田講堂

演題2. 社会薬学の”初心”

—社会薬学研究会設立発起世話人の一人として—

片平洌彦(研究会第2代事務局長)

現在、新潟医療福祉大学大学院特任教授、健和会
臨床・社会薬学研究所所長

<http://www.kenwa.or.jp>

1.社会薬学会設立『前史』(1)

- 1970~88年：厚生省スモン研究班に参加。
- 74~79年：全国スモン問題シンポジウム(計3回)。実行委員として参加。
- 77年7月：第18回社会医学研究会にて、「社会医学と社会薬学—スモン研究の教訓と今後の実践・研究課題」と題し報告。
- 78年10月：「判例時報」に「社会薬学的にみた東京スモン判決の論点」を寄稿。

1.社会薬学会設立『前史』(2)

- 79年8月：日本薬学会第99年会（札幌）にて「社会薬学の課題と方法」と題し「若い薬学者の会」にて特別講演。
- 80年10月：昭和薬科大学50周年記念誌『薬学への提言』に「『社会薬学』の構想」寄稿。
- 81年1月：日本学術会議医薬研連・日本薬学会主催シンポ「これからの薬のあり方を求めて」にて、「社会薬学の提唱」を報告。

1.社会薬学会設立『前史』(3)

- 81年4月：新薬学研究者技術者集団主催シンポ「社会薬学を考える」に参加。報告？
- 81年12月：上田亨・板谷幸一・高野哲夫・片平4名により、社会薬学会設立呼びかけ。
- 82年1月：「からだの科学」に「社会薬学の課題」を寄稿。
- 82年3月：上田教授ほか52氏の発起人により、「社会薬学会」設立の呼びかけ。
- 82年5月15日：研究会設立総会（東京・みやこ荘）





化についても、有識者は堅持(四〇%)条件付き堅持(三〇%)だったのに対し、歯科医の五四%は、無料化は望ましくない。

合金金については、有識者、歯科医とも保険で使わない方がよい、との意見が多かった。

薬の社会性追及

研究会発足へ

「社会薬学研究会」が、五月中旬発足する。

砂原茂一・国立療養所東京病院名誉院長、川瀬清・東京薬科大教授らが発起人

となり、全国の医、薬学者、法律家など約百人が東京で設立総会を開く。

最近、医薬品や、広く人体に作用する物質全般をめぐる社会的な諸問題を科学的に解明しようとする動きが出てきており、薬学だけでなく、保健学、社会学、経済学などの広い分野の研究者が多くの角度から薬の社会性を追及する場にしたという。

設立準備会は、東京都八王子市堀之内一四三二ノ一 東京薬科大科学史研究室 内(〇四二六―七六一五一)。

朝日新聞 日曜版 1982年5月2日

和めざす

57. 5.20



社会薬学研究会が発足、初の総会

当面の課題は具体テーマの探索

社務局長が十時、シロツを
をかねて一回会談。シロツ
を東京、自局のみやま街の
た、公館へは、医館をじ
め法律、経済等の予備知
る。且丁人参加、医藥品社
を調査して、その結果を
示してたが、初めの場合に
つてある。た、活版局が
間になつてゐた。それより

研究家絶人の人である最高顧問と述べた。醫政社会の立場から、社會化学研究所は、薬の立役者である。今田、岡、其家、研究員が、この立場から、これまでの薬学に関する史的な経緯を説いて、薬学の重要性を表明し、そこにこの体験的な含意を込めて領した。医学の場から、奥田二、東京海大の教授が、薬の開拓、社會化の関で生じた葛白、本家は津津に、すすむ的

け、制度に多くの問題点が残っていることを指摘、臨床整理学の必要を訴えたほか、総会後の幹事会では、

最に短期間内氏、事務局長に川瀬、東京薬科大学、会計に片平、評議、東京薬科大学助手、監事に吉井千代田、日本薬学会常任幹事がそれぞれ選ばれた。同研究会の中核としては会員の「コミュニケーション」を図るため機関誌「社会薬学研究」を発行（秋田県刊予定）、研究集会等を行う。次回総会は来年五月に行われる。

藥業時報

(每週月・木曜日発行)

發行所 臺灣時報社

東京都千代田区神田神保町2-3

北神ビル 郵便番号10

電話 265-7751(代表)
電傳 M784 傳真 232084

第 14 页 共 14 页

1993, 2001; 送和)

十 五 六

大藏文局 甲541

電話 大阪 231-7061(1F表)

400 700 201-700KTS

顔

社会薬学研究会初代会長となった 辰野 高 司 氏

薬学の壁をとり多方面から薬を考える場に

法律家、経済家
と共に薬を討議

「社会薬学研究会発足の第二回

総会が始まる前に、会場である人から『思想的なのがあるのか』と問われて、『こちがむしろ無い、たぐりないんですが、そういう色彩は無いと考へて下さり』。

薬学を研究する者が薬の社会性に興味をもち、医師や法律家、経済に詳しい人々と薬について討議する場をいかに広げていくことが目的である、と研究設立の趣旨を説明する。五月十日に発足した社会薬学研究会の、初代会長となった辰野高司氏である。

「薬学者だけでは解決できない問題は多く出て来ますね、とくに社会的な問題は。だからし

んな分野、領域の人が集まって共通のテーマで話をしようということなんです。法律家の人でも薬に興味をもっている方がいますが、薬学会へは直接入ってこれないところがある。この研究会はそういう壁を取り払った研究の場としていますし、誰もが参加できるようにしています」。

当面はテーマ
の選択が課題

薬は疾病を治療する目的で使われ、それ相応の効果を発揮するが、副作用を招き、毒物としての顔をのぞかせることもある。薬に関係する多くの人はこのことを知ってはいないものも、パラド

クスの世界に似た薬のもつ二つの顔は問題を生みさせる大きな要因である。そこ社会的な要因が加わり問題が複雑化すると、薬のもつ特殊性ということで片付けられてしまふことが多いのは事実であらう。会の取り組みテーマは

「第一回総会のとき、会員の間から多々の意見が出されました。それぞれに抱えている問題は多く個人的に取り組んでいる人もいます。ですが、会員の共通するテーマを選び、研究会としてプロジェクトを組んだり、共同研究を進めようと考えています。当面はテーマの選択が課題でしょう。研究会としてはそれと並行して会員のコミュニケーションを重視していくつもりです」。

パリで薬剤師意識の高さに驚く
辰野氏は東京薬学を卒業後、

日大、東京理大の薬学を経て現在の理化学研究所でカビ毒の研究を専門としているが、もとはといえば合成化学の出身。研究の過程で中毒学を学んだのがきっかけだそう。昭和三十七年にはパリ大学で講師をしたこともある。

「パリ大の話があったとき、古典的というイメージがあったためあまり期待していなかったんですが、実際行ってみて得たものは大きかったですね。薬について再認識した思いがありました。というのは薬剤師教育と薬剤師の意識の違いですね。薬剤師の社会的訓練がなされて、教育もその方向に進められている。薬剤師という意識も非常に高く、自己規制されている。インスペクターの役割も果しているわけです。こういうことは歴史的に形成されていったところが大きいと思いますから、わが国に直接おはめて考えるところはできませんが、考え方が役役に役立ちましたね」。

五大学で薬学

概論を教える

薬学の教育といえは、必死にと言われながら教える側の不足からなかなか進まなかった教育リキ

ュラムへの薬概論の導入が、最近になってやっと定着してきた。その薬概論を大学で教えている。東京理大、明治薬科大、星薬科大、徳島大、東北大学の五学を掛け持ちである。薬学生について聞いている。

「一時、いわゆるしらけムード

ハップスター

があったが、最近少し減りますね。まじめな学生が多く、しかも要求すれば答えてくれます。しかし個性がないためみな同じにみえますね。それに問題意識もっている人が少ないようです」。

学生には手が痛い話だが、薬剤師として卒業後、社会に出るとき多くの問題に処できる能力を身につけておくことは当然のことであらう。

(静)



薬局新聞

発行所 薬局新聞社

東京都中央区日本橋本町4-8

日本橋中央ビル

電話 東京03(663)1921(代表)

編集兼印刷発行人 小岩井 拓夫

購読料1年9,500円 郵税共

版律 東京0-182137番

大支 版 東区浜路町1丁目8番

名支 局 海井ビル(202) 3597

支 中 区 大 井 町 3-22

(322) 1564

胆汁配合・胃腸薬

ニサン

ガロ-ル錠



日水会
特選品

日水製薬株式会社
東京 都 墨 区 南 2-5-11

国民のために何をすべきか

社会薬学―耳なれない言葉
だが、医薬品をめぐる数多くの社会的問題を科学的に解明しようとする新しい学問分野である。長い間、有機化学に偏重していたが、国の薬学路線に反省を求め、あつてか急速にクローズ・アップされてきた。

社会薬学研究会は、毎年一回行なわれている日本薬学会年会で、医薬情報センター理事長 樋浦才三氏（星薬大教授）を始め、法学的な活動を続ける若い薬学者



数々の問題が提起されたシンポジウム

社会薬学研が初のシンポ



辰野 高司氏

▽薬学の立場から「辰野高司氏」は辰野高司氏（理化学研薬学台成第一研究室・主任研究員）が就任している。

会場には遠く北海道や九州からもかけつけた薬学者ら二三名が出席。シンポジウムは、同会設立の提唱者でもある片平潤彦氏（東京医科歯科大学）のリードで次の五氏がパネラーとして登壇した。

法学、経済学

開局者も参加

いるが、とかく医療費削減策のひとつとして分業があげられる。思者を中心とした医療チームの二員としての薬剤師の位置づけを見出すべき」と発言した。

二番手の岡田氏は病院医療と地域の問題につきあたり社会薬学を学を社会的に強く検討し、迎えられる。「よく医療がある社会があるという発想があるが、だからこの研究会も社会薬学であり、地域の中における薬学である。では一体社会とはなにか」と岡田氏は、薬がマネージメントされると社会性を失脱してしまう（？）と薬学が社会へアプローチする場、あくまで人間主体

経済学、法学といった領域からも招き、社会薬学の意義や今後の方向づけを論じ、薬と社会とのかわりあいの深さが浮き彫りにされた。

の会のメンバーが、これを社会薬学の確立を呼びつけ、やっといの目をみたもの。発起人には、砂原茂一氏（国立療養所東病院長）、名特郎氏（青森太田氏（奥中通信

経済学、保健学、法医学分野のはか秋葉保次（秋葉薬局）水野勝郎（水野調剤薬局）塚本勘也（大阪公衆衛生、医療の面をとつても薬の社会的機能を考えると、四十

ある。また、私には打ち破ることできない壁がある。と前置きし、交換価値のある財貨としての薬の歴史と西欧における薬種商・薬局同業組合の発展とを語り、現在、医薬分業の進展とわが国薬種商の発展については「明治から今日まで日本の薬学は西欧と違い有機化学的発展したものの医療実務からは疎外された理由が分業の不徹底である。しかし最近では徐々に進んで

2. 「社会薬学」の定義と課題(1)

- 「本会は、薬(主として医薬品であるが、広義には生体に作用する物質)の社会的側面をめぐる諸問題を自然科学的ならびに社会科学的に、すなわち総合科学的に研究し、もって人間の生命と健康の維持・発展に寄与することを目的とする。」＝1982年、研究会発足時の規約第2条(目的)の記載文。
- 上記の青字(下線)部分が「社会薬学」の定義。

2. 「社会薬学」の定義と課題(2)

- 薬の物質性、生理性、商品性(社会性)
(辰野高司「日本の薬学」1966年)
- 薬の医学性、化学性、社会・経済性
(宮木高明「薬学概論」1971年)
- 「化学物質の社会環境中における存在様式とそれに影響を及ぼす諸因子ならびにこれらをコントロールする方法についての科学」
(野口 衛「社会薬学入門」1987年)

2. 「社会薬学」の定義と課題(3)

- 社会薬学の研究・教育課題

「薬」を「医薬品」と限定しても、

薬害問題、薬事行政のあり方、薬事法、医療保険制度、医療費と医薬品費、医薬品の医療での使われ方、薬と医師・薬と患者との関係、医薬分業、薬業経済・経営、製薬企業の動態分析、医薬品の歴史、等に関する問題等がある。

(片平洌彦:社会薬学、5:1-11、1986)

2. 「社会薬学」の定義と課題(4)

- 社会薬学の講座は、少なくとも以下の9講座が必要:

公衆衛生学、衛生薬学、疫学、
社会薬事学、法薬事学、経済薬
事学、管理・行政薬事学、医薬
情報管理学、薬史学

(片平洌彦:社会薬学、5:1-11、1986)

2. 「社会薬学」の定義と課題(5)

- 「社会薬学」の新定義

「社会薬学、Social Pharmacy」とは、薬（主として医薬品であるが、広義には生体に作用する物質）に関する社会的事象における社会科学的因果関係を総合科学的に研究し、もって人間の生命と健康の維持・発展に寄与する学問分野をいう。

（奥田潤、遠藤浩良、片平洌彦、林一
「社会薬学」18(1)103-5、1999）

3.「社会薬学」の国際交流(1)

John Lilja

- 1982年当時、瑞国Uppsala大学と、FinlandのKuopio大学で、Social Pharmacyの研究・教育に従事。その実態につき、「社会薬学」創刊号で片平らが翻訳・紹介。
- 1987年の第6回社会薬学研究会に招聘し、特別講演。演題: Research and Education of Social Pharmacy in the International Perspective. (「社会薬学」6・7(1)1-7, 1988.)

ウプサラ大学訪問(1987年)



Prof. John Lilja (Uppsala University)



3.「社会薬学」の国際交流(2)

その後も、川瀬清初代事務局長や小西良士元幹事らにより国際交流が推進される。

- 第8回総会では、以下の2氏が特別講演。

Masako Nagasawa Murphy(Mississippi大学)

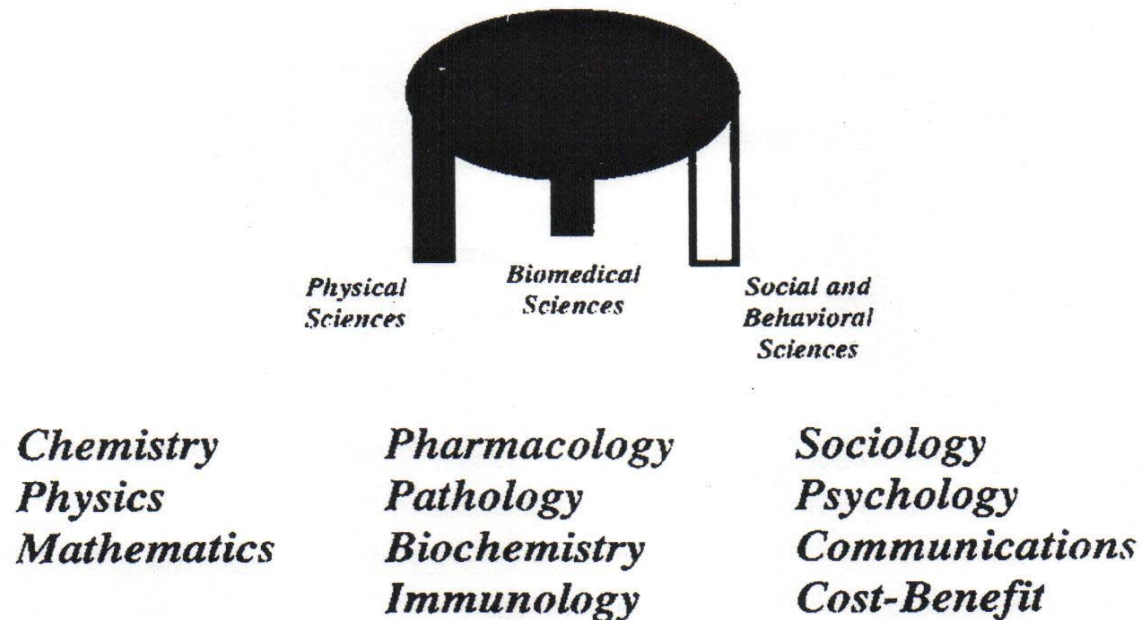
楊 光(北京市衛生局)

(「社会薬学」9(1),92－101)

- 第13回総会では、Albert I.Wertheimer教授
(Philadelphia College of Pharmacy and Science)
が特別講演(「社会薬学」13(1),1-10)

社会薬学=薬学を支える三本柱の一つ

Role of Social Pharmacy



Albert I. Wertheimer

Contribution of Social Pharmacy : Educational Considerations

社会薬学 Jpn. J. Soc. Pharm. Sci. 13(1),9, December.1994

薬学関連の最新の科学としての「社会薬学」

Discipline Schedule Social Pharmacy Evolution

<i>Mathematics</i>	<i>Ancient</i>
<i>Physics</i>	<i>Ancient</i>
<i>Biology</i>	<i>Ancient</i>
<i>Anatomy</i>	<i>17thC</i>
<i>Physiology</i>	<i>18thC</i>
<i>Chemistry</i>	<i>19thC</i>
<i>Pharmacology</i>	<i>19thC</i>
<i>Pathology</i>	<i>19thC</i>
<i>Immunology</i>	<i>Mid 20thC</i>
<i>Genetics</i>	<i>Mid 20th C</i>
<i>Biochemistry</i>	<i>Mid 20th C</i>
<i>Pharmaceutics</i>	<i>1960s</i>
<i>Social Pharmacy</i>	<i>1970s</i>



Albert I. Wertheimer

Contribution of Social Pharmacy : Educational Considerations

社会薬学 Jpn. J. Soc. Pharm. Sci. 13(1),8, December.1994

4. 「社会薬学」の初心

- 「初心」の4つの意味

1. 最初に思い立った時の純真な気持ち。初志。

「—を貫く」

2. 物事の習い始めであること。また、そのさま。初学。

3. 物事に慣れていないこと。世慣れていないこと。
また、そのさま。うぶ。

4. 仏教で、初めて悟りを求める心を発すること。また、その人。

(デジタル大辞典

<http://kotobank.jp/word/%E5%88%9D%E5%BF%83> 2011年8月30日アクセス)



朝日新聞東京本社
東京都千代田区千代田1-1-1
電話 03-261-1111
電報 03-261-1111
○ 朝日新聞社 設立1925年



「ゼブラ」のペンが、世界中で最も愛用されている。その理由は、書き心地の良さ、耐久性、そして美しい線が引けるからである。ゼブラのペンには、様々な種類があり、あなたの好みや用途に合ったペンが見つかる。ぜひ、ゼブラのペンを試してみてください。

ゼブラのペンが、あなたの生活を豊かにする。无论是書写、筆記、还是签名，ゼブラのペン都能为你提供完美的解决方案。选择ゼブラ，选择品质与信赖。

厚生省、全国に指示

薬事審判 スモン病の疑い

【東京8日電】厚生省は8日、全国の都府県庁長官に指示を出し、スモン病の疑いがある医薬品について、速に調査を行うよう求めた。指示によると、スモン病は、主に化学薬品の使用に関連する疾患であり、症状は発熱、頭痛、嘔吐、下痢などである。厚生省は、スモン病の発生を防止するため、関係機関と連携して調査を進め、必要に応じて医薬品の回収を行う方針を示している。



厚生省関係者

整腸剤キノホルム 販売・使用を中止

【東京8日電】厚生省は8日、キノホルム製剤の製造販売元である、（株）キノホルムに対し、同製剤の製造・販売を中止するよう指示を出した。キノホルム製剤は、整腸剤として広く使用されていたが、安全性に関する懸念から、厚生省は中止を指示した。同社は、指示を受け、直ちに製造・販売を中止し、在庫品の回収作業を進めていると発表している。

岳南地区
製紙15社

ヘドロ20%分

漁民の不満

【東京8日電】漁民の間で、ヘドロ（汚泥）の処理に関する不満が広がっている。漁民たちは、ヘドロの処理が適切に行われていないと主張し、漁業活動に支障をきたしているとしている。また、ヘドロの処理費用が高額であることも、漁民たちの不満の要因となっている。関係機関は、漁民たちの訴えを受け、ヘドロの処理方法を見直し、費用の負担を軽減する方針を示している。

知事・県議は11日

来月4月の統一地方選

自治体選挙

知事・県議は11日

厚生労働省前の「誓いの碑」

(1999年建立)



誓いの碑

命の尊さを心に刻みサリドマイド、スモン、HIV感染のような医薬品による悲惨な被害を再び発生させることのないよう医薬品の安全性・有効性の確保に最善の努力を重ねていくことをここに銘記する

千数百名もの感染者を出した「薬害エイズ」事件
このような事件の発生を反省しこの碑を建立した

平成11年8月 厚生省

製薬企業倫理綱領

日本製薬団体連合会

1. 製薬企業は、医薬品が何もののにも代えがたい人間の生命に深いかわりを持つという本質の故に、常に「生命の尊厳」を第一義とし、科学に対する謙虚さをもって自らを厳しく律し、社会の信頼に応えなければならない。

(2以下、割愛)

(1983年9月21日)

薬剤師倫理規定

- 「薬剤師は、国民の信託により、憲法及び法令に基づき、医療の担い手の一員として、**人権の中で最も基本的な生命・健康の保持増進に寄与する責務**を担っている。」

日本薬剤師会の薬剤師倫理規定
(1973年採択、1997年改定)

医薬品医療機器総合機構(PMDA)の理念

わたしたちは、以下の行動理念のもと、医薬品、医療機器等の審査及び安全対策、並びに健康被害救済の三業務を公正に遂行し、国民の健康・安全の向上に積極的に貢献します。

- **国民の命と健康を守るという絶対的な使命感に基づき**、医療の進歩を目指して、判断の遅滞なく、高い透明性の下で業務を遂行します。
- より有効で、より安全な医薬品・医療機器をより早く医療現場に届けることにより、患者にとっての希望の架け橋となるよう努めます。
- 最新の専門知識と叡智をもった人材を育みながら、その力を結集して、有効性、安全性について科学的視点での的確な判断を行います。

(以下 割愛)

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構
(HPに記載,2011年8月30日アクセス)

<http://www.pmda.go.jp/guide/philosophy.html>

むすび

- 筆者の場合、前述のように、社会薬学への「初心」は、当時の「世界最大の薬害」スモンの調査研究に日夜没頭する中から生まれたものであり、まさに「人間の生命と健康の維持・発展に寄与する」ことを心底願ってのことであった。そのような意味内容は、日本製薬団体連合会「製薬企業倫理綱領」(1983年)、日本薬剤師会「薬剤師倫理規定」(1997年)、旧厚生省の薬害根絶「誓いの碑」(1999年)、PMDAの「理念」に盛り込まれている。そうした「初心」を忘れることなく、今後ともに自らの瞳のように大切にしていきたいものである。